

令和4年度第1回羽島市まちづくり基本条例推進委員会（会議要旨）

日 時	令和4年11月2日（水）午後2時00分～午後3時30分
場 所	羽島市役所 3階 301会議室
出席者	<p>（委員）出席者6名  今井良幸委員長、小森博昭副委員長、塚本明日香委員、田内重三委員、栗本静子委員、加藤隆康委員</p> <p>（事務局）出席者6名  松井市長、伊藤市民協働部長、伊藤市民協働部次長、牧野市民協働課長、横山同課主幹（兼）課長補佐（兼）自治振興係長、松尾同課主査</p>
内 容	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 市長あいさつ</b></p> <p><b>3 委員長・副委員長の選出</b>  今井 良幸委員を委員長に、小森 博昭委員を副委員長に選任。</p> <p><b>4 協議事項</b>  事務局より資料1・2に基づき説明</p> <p><b>【意見・質疑】</b></p> <p>（委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の方々が活動されている中で、コロナ禍でどのような影響があったのか、お聞かせ願いたい。</li> </ul> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の地域活動は、昨年度はほとんどが中止となったが、今年度は飲食を無くし参加者を限定するなど、感染対策を図りながら実施している。</li> </ul> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティセンターについて、昨年度までは休館、時間制限、人数制限など、何らかの利用制限を設けたが、今年度は緩和し、利用していただいている。</li> <li>三大行事（運動会、夏祭り、文化祭）は、ほとんどの地区でこれまで開催が見送られた。</li> <li>地域活動に対する運営は、前例踏襲としているものが多く、改善するなど手法を変えていく時期に来ているのではないかと。</li> </ul>

(委員)

- ・ コロナ禍を経て活動の内容が改善され、良くなったこともあるように思う。
- ・ 例えば、地元の高齢者向けサロンは、その場での飲食を無くし持ち帰りに変更したほか、時間を短縮し土曜日開催としたことにより、会社勤めの福祉委員も参加できるようになった。

(委員)

- ・ 大きな催し物も地元の行事も、コロナの影響により縮小や中止となっている。
- ・ コロナ禍の状況を踏まえ、活動していかなければいけないという声と、もう少し様子を見た方が良いのではという声がある。
- ・ 地元の行事のうち、フリーマーケットなどを含めた活動の計画をしたことで、他の地域からも参加者が加わった事例があり、自治会以外の人も交えた形での活動が広がってきたと感じている。
- ・ 他の地域と関わることもひとつの方法であると思った。

(委員)

- ・ 他の地域へ関わりを広げるといった話は聞いたことがなかったため、詳しくお伺いしたい。

(委員)

- ・ フリーマーケットの出店を募集したところ、他の地域から出店希望者が集まったことで、新規の来訪者やフリーマーケット出店者との交流など、様々な形での交流が広がっていった。
- ・ 地域のことをその地域の人のみで頑張らなければならない、という重荷が少し外れた印象がある。

(事務局)

- ・ 資料より、「今後の地域活動を新しいスタイルに変えるために必要だと思うもの」として、慣例化したイベントを衣替えする必要があるのではないか、という意見が読み取れる。
- ・ 地域の中には、子ども会の役員のみ手が少ない中で、行事の仕方を工夫して新たな方法で活動しているような事例がある。
- ・ 行政も高齢化を踏まえて行事の対象年齢を見直すなど、事業の衣替えを行っている。

(委員長)

- ・ 「新しいスタイル」とは何か、それぞれで思うことは違うと考えられる。委員の方々が思われる「新しいスタイル」のイメージや考え方をお聞かせ願いたい。

(委員)

- ・ 情報発信をした結果、自治会という枠を超えて外部の人と繋がることのできたという事例は大きなヒントであるとする。
- ・ コロナ禍の状況を踏まえた上で、活動をしたい人たちが活動できる場所を通じてその地域と繋がれるようにすることが、コロナ禍を契機として変化していく部分ではないか。
- ・ コロナ禍により各自がアップデートした ICT の技術や知識を活用し、外部の方を受け入れる新しいスタイルを作り出すことができれば良いのではないか。

(委員)

- ・ 高齢者向けの行事について、再開の情報を従来よりも広い範囲に発信したところ、他の地域からも参加があり、今までよりも人が多く集まった事例がある。
- ・ 情報発信をすれば再び盛況になるのではないか。

(委員)

- ・ 自治会を超えての繋がりという点で、例えば羽島市の大きな催し物などにおいて、地域の特色あるものを集約、披露できる場を設けることにより、地域間の親交も深まり、面白いのではないかと思った。

(委員)

- ・ 先日、講座やシンポジウムが多数開催されるイベントに参加したが、特別に何かに秀でた方が講座を開くと、若い人たちも大勢集まってくると感じた。
- ・ 羽島市出身の方や県内の著名人などに講師として講座や講演会を依頼するなど、若い人たちも参加したくなるようなイベントがあると良いと思う。

(委員)

- ・ コロナ禍の状況を踏まえ、今後は地域活動を中止するのではなく、実施するための手法を考えながら進めていかなければ、地域

活動の改善は難しいのではないか。

(委員)

- ・ 地元の地域は、趣味で身体を動かすよりも農業に勤しむほうが良いという考えの人が多。活動や交流の場となるコミュニティセンターも一部の住民のみが利用している状況がある。
- ・ 地域の役員のなり手が不足している。住民が地域に対して主体的になり、自分事として捉えるための意識改革が必要と思われる。
- ・ 新しいスタイルに変えるチャンスではあるが、実際どうすべきかと言われると難しい。

(事務局)

- ・ 地域の状況を根本的に変えていくには、大きなイベントを計画する前に、地域行事から集客方法を模索し、人々の共感を生むようなイベントを実施することが必要であると考え。

(委員長)

- ・ 自治会単独での実施が困難な場合は、外部の協力者を集めるために情報を発信することが望ましい。
- ・ 協力者を求めている地域と、地域に協力したいという外部の人が繋がりやすいよう、双方の情報がわかるマッチングシステムのような仕組みも必要ではないか。
- ・ なり手不足や自治会加入率の低下についても、情報発信が効果的である。活動がある程度把握できれば興味を持つ人が増える可能性があり、将来の担い手に繋がっていく。
- ・ 若い人たちに向けた取組みや働きかけも有効である。最近の若い人たちは、学校教育の中で協働や参画を学んでいる世代のため、アプローチすれば反応を示す人は増えていると思われる。
- ・ アプローチの方法は地域によって異なる。他の地域で上手くいったものが自分の地域でも上手くいくとは限らないため、試行錯誤しながらアプローチすることが望ましい。

(委員)

- ・ 地域と繋がる仕組みを作り、活動したい人たちを地域と繋げるということについて、羽島市は地域に参画する職員の制度を設けていたと思うため、その職員が活躍できると良い。羽島市の中で既にある仕組みを活用できることが望ましい。

(事務局)

- ・ 地域に関わる職員の制度について、本市では任期付き消防団として、勤務時間中の日中の火災には2年目の職員が出動するという取組みがある。
- ・ 地域担当職員については、地域のコーディネートをする仕事を依頼している。
- ・ 様々な取組み方があるが、行政と住民側との壁を無くすため、多様な形での交流を今後も図っていく。
- ・ 本日は多数のご意見をいただき感謝申し上げます。

## 5 閉会